

♪ シニア便り ♪

創立二十周年記念行事を終えて

団長代行・常任指揮者 中村 暁生

実行委員長より感謝の言葉

第20回定期演奏会実行委員長 山田 光國

第二十回定期演奏会を終えて

第20回定期演奏会実行委員・演奏会担当 阿部 薫

一筆吹奏（新入団員のごあいさつ）

トロンボーン	太田 孝継
サクソ	根上 豪
パーカッション	三浦 恵



第25号（2013年11月発行）

発行 北海道シニア吹奏楽団・事務局

編集 シニア便り・編集部

創立二十周年記念行事を終えて

団長代行・常任指揮者

中村 暁生

去る十月二十日は略満員のお客様を迎えての第二十回定期演奏会と、来賓ご家族を交えた祝賀会が無事終わって正直のところホッとしています。

去年の早い時期から計画を立て準備を進めてきて下さった実行委員の皆様、事務局の方々、そして終始積極的に協力して下さいました団員の皆様に心から深く感謝申し上げます。

顧みますと、「音楽は生涯の友、仲間と一緒に音楽を楽しみ交流する、日本一楽しい楽団を作る」との故林先生の呼びかけに応じて集まった数名の仲間から始まった私たちの団が、その都度生まれてくる課題を克服しながら二十年という時間を経て規模も、演奏内容も確実に充実発展して

きたことを思うと感慨ひとしおです。と同時に、今回の演奏会と祝賀会を林先生とご一緒できなかったことが残念でなりません。

さて、今回の演奏会では「成人を向かえたシニアの挑戦」をテーマの一つとして取り上げ、ワーグナーとヴェルディ生誕二百年にあたることを絡めて難曲に取り組みましたが、私を含めて充分消化しきった仕上がりにならなかったことは今後の課題であると思えます。

演奏する側もお客様も共に楽しみながら、然し達成感のある音楽作りを企画の段階から綿密に考えて実行していくことが必要だと考えさせられました。

創立二十周年という一つの節目を超えた今、改めて団創立の理念を根底に、将来の団のあるべき姿と達成のための具体的方策を皆様と一緒に考え、進めていきたいと思っています。

実行委員長より感謝の言葉

第二十回定期演奏会実行委員長

山田 光國

第二十回定期演奏会並びに祝賀会を終了し、今はホッとしている状態です。団員の皆様方には色々のご協力頂きありがとうございました。

特に実行委員会の方々十六名には、昨年六月から委員会のために練習前に集って頂き、大切な日曜日をご自身の為に費やして頂きありがとうございました。

実行委員会はクラリネット・パートだけで運営する予定でしたが伊藤さん(エ)、古川さん(コ)、鈴木さん(ソ)の御三方にも協力してもらいました。祝賀会では中村先生の元でゲストも迎えて頂いて、私を支えて頂き大変感謝しております。

残念なのは吉田さん(ヨ)、勘米良さん(エ)、三浦さん(ト)、内田

さん(ニ)達が退団されたことです。二十年の節目と一緒にお祝いし又我々からも感謝したかった。内田さん、勘米良さん御二人には祝賀会に参加してもらい何とか区切りをつけることができ実行委員長としてほぼ満足しました。全団員にはお礼の言葉を申し上げます。

最後に、ここまで成長したシニアを立ち上げてくれた林団長には二十年の定期演奏会・祝賀会に参加して頂けなかったことが残念です。林団長には心から感謝致しますと共にご冥福をお祈り申し上げます。



第二十回定期演奏会を終えて

実行委員・演奏会担当

阿部 薫

創立二十周年の今年、クラリネットパートが祝賀会と演奏会実行委員を担当する事になりました。実行委員長から、リーダーを決めて進めたいとの意向を受けて演奏会のリーダーをさせて頂きました。

私自身シニアでの実行委員は一〇周年で経験して以降六度目ですが、今までは普通に委員として役割を果たしてきただけ、初めは肩に力も入り、思う様に事は進まず、今までの経験や積み重ねは音を立てて崩れて行きました。正直リーダーは性に合わず、皆さんの意見をまとめられず、周りをヤキモキさせたことこの上なく反省しています。そんな中でも「ひとり・ひと仕事、適材適所」を忘れない様にしました。十二名の大

所帯だから、意思の疎通を図ることとは大変でしたが、沢山のアイデアが出た事、ひとり欠けてもみんなでカバーしあえた事は支えになりました。

そして、今年のテーマは「祝・旅立ち・挑戦」に決まり、今までに無い新しい事、二十にこだわりました。選曲委員会を立ち上げ、中村先生、石井さんにお力添えを頂きました。ワーグナーとヴェルディの生誕二百年にちなみ、難曲に挑戦。お楽しみコーナー二曲当ても初の試み、木管・金管別の団員による編曲など、初めての事が沢山の演奏会になりました。

編曲と指揮に身を削って挑んで頂いた石井さん、編曲に始まり、シナリオから演出全てを担当して頂いた鈴木さん、司会を快く受けて下さった高橋幸恵さん、常に助言して下さいました伊藤事務局長に、紙面を借りて改めて、お礼申し上げます。

さらに、受付、ステージの裏方、楽器運搬など、団員ひとりひとり

が声をかけて下さった事が本当に心強く、力になりました。団員の皆様有難うございました。



一筆吹奏

新人団員からのごあいさつ

『新参者の呟き』

トロンボーン 太田 孝継

先般の定演、大変ご苦勞様でした。

大成功のもとに終演した第二十回定演のステージに観客が盛大な拍手を送って頂いたことは、演奏者冥利に尽きると思います。

実行委員の方々、並びに中村団長代行ほか団員の皆様のご努力の賜物であったと思います(私はホンワカとレールに乗ったまままででしたが・・・)。

その定演も終了しホッと一息ついていたところ、編集委員から自己紹介の原稿を依頼されました。皆様のお顔を拝見するようになって、まだふた月余り…。突然の依頼に困惑していますが、ちょっとだけ「私と吹奏楽の出会い」から「北海道シニア吹奏楽団入団」までを勝手に呟いてみたいと思います。

私と吹奏楽との出会いは遥か四十四年前でしょうか…。当時のTVプログラムは歌番組が多数を占め歌謡曲ブームが到来していました。そんな時代…。歌番組のバックで演奏する Big Band に魅かれ、中学校に入学した吹奏楽部のそこにはトロンボーンを吹いている自分がありました。そして、進学先の高校は当時としては珍しい「吹奏楽団」。「勉強第一?」

の現在では考えられないと思えますが、当時は朝、昼、晩と楽器漬けの毎日。休みは盆と正月程度で、「コンクール、定演を目標に日夜“楽しく”“パワー漲る”“情熱的”な活動を行っていた?」ことを思い出します。そして、高校最後の定演で長年友としたトロンボーンと別れを告げました。その後、大学に進学し現在の職場への勤務。楽器とは無縁の生活であり、二度とトロンボーンとは廻り逢わないだろうと思っていました。

ところが一昨年、出張で北欧に行ったとき、現地の人々の見事な余暇の過ごし方に感銘を覚えしました。ふと我を振り返り、これからの生きがいは何なの?と思つた時、そこには情熱を燃やしていた若かりし頃の自分を思い出しました。

昨年五月、先輩である某楽団団長にその楽団の傘下のリベルBand(俗名・百円Band=参加料一回につき百円で出入り自由のた

め、元東京藝大教授の杉木峯夫先生がそのように名付けたらしい)に「遊びに行くわ!」と連絡し練習会場に行ったところ、「この楽器、用意しておいたよ!」とのことで三十七年ぶりにトロンボーンと再会。仕事の都合上、月一、二回の練習参加でしたが、某楽団員方の温かい励ましもありその某楽団の定演等々に参加。まだ転勤は無いだらうと思っていた矢先の異動内示。結局、リベルBandでの活動は半年余りでした。

今年四月に定期異動により岩見沢市に赴任。仕事も落ち着き、好きな音楽、楽器への未練もあり、未長く活動可能な楽団が無いのか?とネット検索。「音楽を楽しみ:」トロンボーン募集」「北海道シニア吹奏楽団」の文字を見つけた途端、問合せのメールを送っていた自分がいました。

そして、鈴木副団長から返信を頂き、見学の機会を頂くこととなりました。

“北海道シニア吹奏楽団”と縁

も所縁もない見ず知らずの私が九月に見学に来て、十月に入団。さらに楽団の区切りとなる定演にまで参加させてき、中村団長代行、鈴木副団長はじめ団員の皆様方の寛大なるご厚意に心より感謝しております。

今般、まだまだお話をしたことがない方が多数いらっしゃいます。未熟者のこんな私ですが、楽団の一員として未長くお付き合いたい願えば有難いと思っております。どうぞよろしくお願い致します。



新入団員からのごあいさつ
サククス 根上 豪

昨年パーカッションで入団し、今回A.saxに異動になりました根上です。中・高校時代にA.sax、S.saxを担当していました。楽器を吹く機会もなく、久々なのでパートの方はじめ、団員の皆さんにご迷惑をおかけすることも多くあるかと思いますが、一生懸命頑張りたいと思います。

子供が二人で、一歳と九月に生まれたばかりの子がいます。託児の方でもお世話になることがあるかと思えますのでよろしく願います。

交代勤務で子供も小さく、仕事などで練習参加が難しいこともあるかと思いますが、参加できる時はできる限り参加したいと思います。

趣味が楽器を弾くことで、音楽が大好きなので皆さんと楽しく演奏できたらとても嬉しいです。

新入団員からのごあいさつ
パーカッション 三浦 恵

私が今まで経験をした事のある楽器は、Cl・Per・Tp・Hr・Ob・Sax…

今も担当しているPerを始めたのは中学生の時、Perの希望者が少なく『今までとは違う楽器を経験するのも楽しいかも』という好奇心からでした。

吹奏楽と出会ったのは小学三年生の時、マーチングバンドに所属したのがきっかけです。

小学～高校まで九年間、学校には勉強しに行ってるのではなく、部活をしに行っている様なもので(笑)。それくらい、楽器を演奏する事が楽しくて仕方のない毎日だった事を思い出します。

社会人になってからも、気持ちはウズウズ…気付けばスティックで枕を叩いている自分がいました。

当団に入団させて頂くきっかけとなったのは、指揮者の中村先

生からの「また太鼓をやりませんか?」というラブコールがあったから(笑)。

子供がまだ小さく、再開の時期を見極めていた時、陸自音楽隊の矢野さんから「シニアはお薦め」という言葉を頂いたからです。

先月、入団してから初めての定期演奏会を、無事に終える事ができ、ホッとした気持ちもあります。が、これからも吹奏楽をやれる事の喜びを感じながら、皆さんと一緒に音楽を楽しんで行きたいと思います。

身体は小さくpp(ピアノissimo)ですが、気持ちはff(フォルテシモ)ですので、これからも宜しくお願い致します。



編集余録

定期演奏会が無事に終了し、お疲れ様でした。演奏会終了後はとかく練習の出席率が下がりがちですが、出席率の良さは音楽を心から愛している皆様ならではないでしょうか。次回も楽しく演奏出来るように頑張りましょう!
(石田由紀)

定演お疲れ様でした!シニア吹奏楽団は成人を迎え嬉しい限りですね。在籍年数の長い方々が多くなって素晴らしいことだなとつくづく思っています。みなさん元気で健康で楽しく来年の定期演奏会に臨めたらと思います。
(長土居梨那)

今回よりシニア便りの編集に加わることとなりました。名前だけの役員でしたので、やっと役員として本格的始動です(遅すぎ)。豊水会館での始めての冬の練習ですね。寒いのか暖かいのか。暖

かいといいですね。駐車場も狭くなりますし、雪も降るので練習に行くのが大変ですが、冬眠せずに頑張りましょう!
(高橋幸恵)

